
恋とオタクと黒髪美人

相良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋とオタクと黒髪美人

【Nコード】

N7973B

【作者名】

相良

【あらすじ】

「君ってさあ、青春してる？」この言葉で宗介の取れていた歯車は、正常(?)に動き出した！愛と青春とグダグダな心アクション恋愛アドベンチャー！・・・なのか？

序章にして第一話（前書き）

途中、相良の昔話をいれています。暗いです。ダークです。なので
宗介も、回りを巻き込むダークネスな奴になっちゃいました。違う
のは、彼は『黒髪美人』によってポジティブになってゆくことです。
羨ましい！？

序章にして第一話

「好きな奴！？いねえよ！」

嘘です。います。このクラスに。

もう、一目惚れでした。

恋を知らない青二才が、恋を知る青二才になりました。

彼女は、長く美しい黒髪、しなやかな肢体、極めつけは独特の、ベ
ージユの眼に黒い瞳。

もう！痺れちゃう！

・・・ハイ、そこっ！キモいと言わない！

ホント、あのエンジェルスマイル見たら、こうなっちゃうから。
それぐらいにかわいい。

しかし、一応クールで通っているので、まわりにこのことを知られ
るわけにはいかない・・・

小林美里への密やかな想い。そして・・・

俺がオタクだということを！

高校。

それは青春の1ページを彩るステージ。

学生たちは恋愛、すなわちLOVEにひた走る！

しかし入学式数日前、そこには

「つまらない日々が続くんだなあ」と思う俺がいた。
小学時代、よくいじめられた。勉強すれば常に上、運動すれば中
の上、顔付きもいい。

嫉むやつは多いが、モテはしなかった。友人も少なく、5人くら
いしかない。喧嘩は上級生多人数相手に勝つぐらいに強かった。
かえって友達を無くした。

高学年になると、クラスでハブられた。二年間、体育はほぼ見
学状態だった。休み時間は少ない友達と遊んだり、本を読んだりし
た。

中学の思いでは、あまり良くない。

初めての恋。言い出せずに終わる。人の夢ははかないと知る。

部活で、最強の落ちこぼれに出会い、同情して優しくしてやった。
理由も無いのに二度殴られ、ブチ切れた。反撃を許さない怒涛の攻
めで相手を倒した。歯を折る怪我を負わせ、22万の請求がきた。
のちに離婚の慰謝料にされたと知る。部活は柔道をやった。俺に
は向いていなかった。結局、中央止まりで俺の柔道はおわった。

他の部員は県大会、関東、全国へと進んでいった。・・・

体育祭、修学旅行、その他諸々、何一つ俺の心に響くものがなか
った。皆には笑顔が溢れていた・・・

卒業式。みんな泣いていた。何故泣いているんだろう？何が悲し
いのだろう？どこが痛いのだろう？誰に聞いてもわからなかった。
泣いていない奴でもわかる奴はわかるって言われた。

「じゃあわからない奴は？」

教えてはくれなかった・・・「お前は暗過ぎる」

「お前は人を気にしなさすぎだ」

「お前は俺が言ったとおりによればいいんだ」

「何なんだこの点数は！？」

五月蠅い

うるさい

ウルサイ

うるさい！

「ほつといてくれよ！これ以上は無理なんだよ！静かな暮らしを求めちゃいけないのかよっ！？」

そんなこと、言う根性も無かった・・・

「趣味は？やっぱ読書？」

そう聞かれた時がある。

趣味・・・ですか？

「読書・・・ですね。あと・・・」

ガンダム。

は？

ガンダム！

「機動戦士ガンダムツス！」

呆れられた。

「なんかオタクっぽい趣味だね」

中学時代、憧れの先輩とこんな会話をしたことがある。すごい美人で寝技の練習が大好きになった。その時だけ会話が出来たから。（乙女チックだ・・・）

先輩が卒業して何ヶ月かした時、偶然あった。綺麗な短髪は、茶色いヤマアラシになっていた。頭の中で何かが音を立てて崩れてしまった・・・大切な何かが・・・

失望感が身体を包んでいた。

絶望が心を蝕んでいた。

何を間違えた？

何処から間違えた？

「俺がつ！何をしたあ！」

返事はない・・・

わかることは、

生まれたことが過ちなんだ。

でも。

自分で自分を殺すなんて、そんなことできたら・・・

「こんな苦勞しねえよ・・・」

16手前、人生ダメだと思った。

担任に勧められ、この高校を受験した。

「推薦はとも無理ですが、一般入試は確実に受かります！」

ダメだしを受けた親は、縋るようにそこを受けさせた。受かった代わりに、俺は毎日1時間チャリを漕ぐ羽目になった。

一年三組 鍵守 宗介

脱力を振り撒きながら、高校生活がスタートした。

第二話はウジウジ終わる。

玄関で靴をぬぎ、多目的ホールとよばれる広い空間に出る。椅子や机が置いてあるが気にせず直進、廊下に出る。

（三組はえ〜と・・・）

こっちだ。

右を向いてトポトポと歩いていくと『1ー3組』と書かれたプレートが目に入った。

後ろのドアに名前、番号、出身地（中学校名）が書かれた紙があり、その下に番号で書かれた席順の紙がある。

ドアと席を5、6回往復して自分の場所を確認する。記憶力には自信が無かった・・・

（チャラチャラした餓鬼どもが多いな・・・）

第一印章わるっ！

っーか人、少なっ！

不良校？

おかしいなあ。

ここ、県内有数の『進学校』の筈なんだけど。

・・・

・・・

・・・

おわったな！

「はいみなさん、席につけえ！」

なんかおかしくない？ま、いつか・・・

「これから体育館で入学式が始まりますんで、番号順に並んで廊下に出ていてください。」

そういつて、そのオッサンは出ていった。

「あれが担任かなあ？」

「えー、マジ勘弁！」

「つかあれキモくない!？」

お決まりの言葉が聞こえてきた。まわりからは話し声こそ聞こえるが、誰も廊下へ出ようとしない。

(はあ)

仕方ないので、廊下で携帯をやっていた。携帯を持ってからは掲示板への力キコは欠かさない。

「朝っぱらからケータイはまってんなよ！」

!

後ろから聞こえた！振り向いた先には若干チビがいた。

「・・・だれ？」

「誰って桐山だよっ！お前の後ろの席にこういうのいただろ!？」

桐山康平、俺の一つ後ろの席であり、当然番号も一つ上だ。

「・・・ふうん。」

「ええ!？」『よろしく』とか、『よろしく』とか、『よろしく』とかないのかよ!？」

知るかあ！

「よ、よろしく」

「おう！よろしく！」

本校友達第一号、桐山の誕生である。(このあと入学式で爆睡していた桐山を何度も起こさなければならなかった。)

「改めて初めまして。今日から皆さんと一緒に勉強させていただきます、佐藤です。よろしくおねがいます。」

ちなみに今はホームルームで、担任挨拶中。後ろからは

「おばちゃんかぁ、ハア」て声が聞こえてきている。どうやら、新任教師の若い人を狙っていたらしい。

「・・・ドンマイ桐山。」

「はぁ。なんで麻田ちゃんじゃなくてこんなおばちゃんなんだ？」

「ついが無理だろ。あの保健室勤務だぞ？」

言わなかったほうがよかったかな、と思うほどにそいつの目が輝いた！

「俺、明日から保健室登校にするわ。」

「そのまま留年しろ」

ふと、桐山の後ろの席を見てみた。・・・誰も座ってない。

「そついや朝も居なかったよな。」

「始まって早々不登校かよ・・・あれのために落ちた奴が羨ましいよ」

「なんで!？」

「ホントはきたくなかったんだよこの学校。はぁ・・・何で真面目に受けちゃったのかな？入試」

なんか、喋る気力が無くなってきた。

この学校に来たのも、親が勝手に決めてしまったせいだ。ホントはもっと下のレベルの学校に行きたかったのに・・・。

ダークネス・スイッチが入ってしまった。嫌な思い出やトラウマに身体を包まれたような気分になる。

その後の記憶は曖昧で、どうやって帰ったのか、いつ寝たのか、日にちが変わるまでの記憶がほとんどない。

それでも、地球はまわっている!・・・らしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7973b/>

恋とオタクと黒髪美人

2011年1月19日03時55分発行